

“にぎやかそ”なまちづくりを目指す美波町。



町内のいたるところで、まちに新たな風を吹き込む取り組みが始まっています。今回は薬王寺の門前町、桜町商店街に拠点を構え、地域内外の人をつなぐ若者の“にぎやかそ”な取り組み取材しました。



▶ホステル&パブで地域内外を繋ぐ場づくり



薬王寺の門前町、桜町商店街でホステル『壱 THE HOSTEL』を営む和田さん。美波町に来る前から、ホステル（安価で泊まれる宿泊施設）を運営する目標を持ちながらも、大阪でサラリーマンとして過ごしていました。

その後、ホステル運営を学ぶためにカナダへ渡り、帰国後に美波町にサテライトオフィスを構える友人からの紹介で現在の物件を見つけたと言います。古くなっていた物件を自分たちの手でフルリノベーションし、現在の『壱 THE HOSTEL』が完成しました。「コロナ前でいうと年間1,000人以上がホステルを利用し、そのうち6割以上が日和佐に訪れるのが初めての人でした。これまで日和佐を素通りしていた人たちの、窓口

の役割が出来つつあると思う。宿泊客以外にも楽しんでもらえるようホステルの隣に『壱 PUB』（酒場）もオープンし、旅行者との交流含め、今まで体験出来なかったような非日常の交流ができる場所を提供していきたい」と語る和田さん。

旅行者と地元住民の両方が楽しめるような場所を目指し、美波町全体を盛り上げていこうとしている和田さんは、今後は地域の事業者と協力したイベントも企画しているようで、ますます地域ににぎわいを創出してくれそうです！

▶町にアートを、町に彩りを

桜町商店街で「at Teramae」の運営に携わる画家の磯中さんが、桜町の和菓子屋「豊田屋」と、中村町のサンドイッチ屋「mille un(ミルアン)」の壁面を使い、住民の方と共にウォールアートづくりに取り組みました。

磯中さんは山口県出身で、アジアやオーストラリアを旅した後、8年前に友達の誘いで初めて美波町を訪れました。それから再び海外に出て、カナダや南米等世界中の旅を経て、5年前に美波町に移住しました。「人がおもしろくて、サーフィンもできるし、住むなら地元ではなく美波と決めていた」と語る磯中さん。

以前からとにかく大きなキャンバスに絵を描きたいという思いを持っていたそうで、美波町で初めてウォールアートづくりに取り組んでから、いろんな人にお声掛

けいただき、現在では町内の様々な場所でウォールアートを描いています。今回は、住民参加型で作品づくりを行っており、一人で描くのと違い、いろいろな人と話をしながら一つの作品をつくり上げるのがとにかく楽しいとのことでした。

今後は、堤防や学校跡地等もっと大きなキャンバスに絵を描きたいと無邪気に語る磯中さん。自身の技術を活かしながら、好きなことを形にして町ににぎわいをもたらす姿は、“にぎやかそ”そのものなのではないでしょうか。おすすめのウォールアートの舞台があれば、ぜひ磯中さんに教えてください！



人口が減ってもにぎやかな町・美波町をつくるために、日々頑張る人や団体、取り組みなどの情報をお待ちしています！
▶役場政策推進課(77-3616) もしくは ▶QRコードの応募フォームからご連絡ください。

